

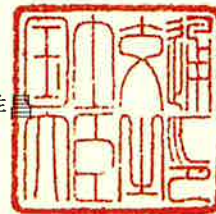
認定書

国住参建第 2326 号

令和 7 年 9 月 19 日

日鉄建材株式会社
代表取締役社長 新城 晃 様

国土交通大臣 中野 洋



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第二号（床：2 時間（第一号）、1 時間（第二号））の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP120FL-0277
2. 認定をした構造方法等の名称
軽量コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ・連続支持）
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名

軽量コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ・連続支持）

2. 荷重及び支持間隔

・床の支持間隔：2,400～3,600mm の場合

自重を含めた全荷重 (w) × 支持間隔 (L) の 2 乗 = 117.2kN 以下 (一般的な支持間隔と荷重を表-1 に示す。)

・床の支持間隔：2,400mm 以下の場合

自重を含めた全荷重：21.94kN/m² 以下

注) 全荷重 = 固定荷重 + 積載荷重

3. 材料構成等

項 目	製 品 仕 様
床版	デッキプレート 規格：JIS G 3352 (デッキプレート) 鋼板の種類：SDP1T, SDP1TG, SDP2, SDP2G もしくは SDP3 (SDP1T, SDP1TG は厚さ 1.2mm 以上に限る) 鋼板の厚さ (mm)：1.0～1.6 山高さ (mm)：75±1.5 働き幅 (mm)：600+8-2、300+8-2 端部形状：①支持間隔 2,400 超～3,600mm の場合 エンドクローズ仕様 ②支持間隔 2,400mm 以下の場合 端部形状の指定なし 形状及び寸法：4. 構造説明図参照 コンクリート 規格：レディーミクストコンクリート (JIS A 5308) 種類及び呼び強度 (N/mm ²)：軽量コンクリート (呼び強度：18～45) 厚さ (mm)：80 以上 (デッキプレートの山上からの厚さ) 床版の総厚 (mm)：155 以上 支持条件：連続支持
ひび割れ拡大防止用鉄筋	仕様：①もしくは②のいずれかとする。 ①溶接金網 規格：JIS G 3551 線径 (mm)：6 以上 間隔 (mm)：100 以下×100 以下 かぶり厚さ (mm)：30 以上 (コンクリート上面から) ②鉄筋 (異形鉄筋) 材料名及び規格：(1) もしくは (2) のいずれかとする。 (1) 鉄筋コンクリート用棒鋼 (JIS G 3112) (2) 鉄筋コンクリート用再生棒鋼 (JIS G 3117) 直径 (mm)：D10 以上 配筋間隔 (mm)：200 以下×200 以下 かぶり厚さ (mm)：30 以上 (コンクリート上面から)

項 目	製 品 仕 様
スペース (ひび割れ拡大防止 用鉄筋用)	種類：①もしくは②のいずれかとする。 ①鉄線 線径(mm)：5.0以上 (規定のかぶり厚さが確保でき、施工時に変形等しない線径以上) 配置間隔(mm)：1,000以下 ②セメントモルタルブロック 寸法：規定のかぶり厚さが確保できる断面寸法以上 配置間隔(mm)：1,000以下
接合方法	梁と床版の接合 (1) デッキプレート端部梁 仕様：頭付きスタッド 規格：JIS B 1198 寸法(mm)：φ16-L110以上 留め付け間隔(mm)：300以下 (2) デッキプレート中間部梁 仕様：①もしくは②のいずれかとする ①焼抜き栓溶接 溶接径(mm)：18以上 溶接間隔(mm)：300以下 ②頭付きスタッド 規格：JIS B 1198 寸法(mm)：φ16-L110以上 留め付け間隔(mm)：300以下 梁とデッキプレートの接合 (1) デッキプレート端部梁 仕様：①～⑤のうち、いずれか一仕様とする。 ①アークスポット溶接 ②すみ肉溶接 ③焼抜き栓溶接 ④プラグ溶接 ⑤打込みびょう 梁とデッキプレート端部のかかり代(mm) ：50(-10)以上 (2) デッキプレート中間部梁 仕様：①～⑥のうち、いずれか一仕様とする。 ①アークスポット溶接 ②すみ肉溶接 ③焼抜き栓溶接 ④プラグ溶接 ⑤打込みびょう ⑥なし(梁と床版の接合に焼抜き栓溶接を用いる場合)

表-1 一般的な支持間隔と荷重

支持間隔 (mm)	自重を含めた全荷重 (kN/m ²)
2400 以下	21.94 以下
2500	18.75 以下
2600	17.33 以下
2700	16.07 以下
2800	14.94 以下
2900	13.93 以下
3000	13.02 以下
3100	12.19 以下
3200	11.44 以下
3300	10.76 以下
3400	10.13 以下
3500	9.56 以下
3600	9.04 以下

注) 支持間隔が表の中間の値の場合は $WL^2=117.2\text{kN}$ 以下であることを確認すること

W : 自重を含めた全荷重 (kN/m²)

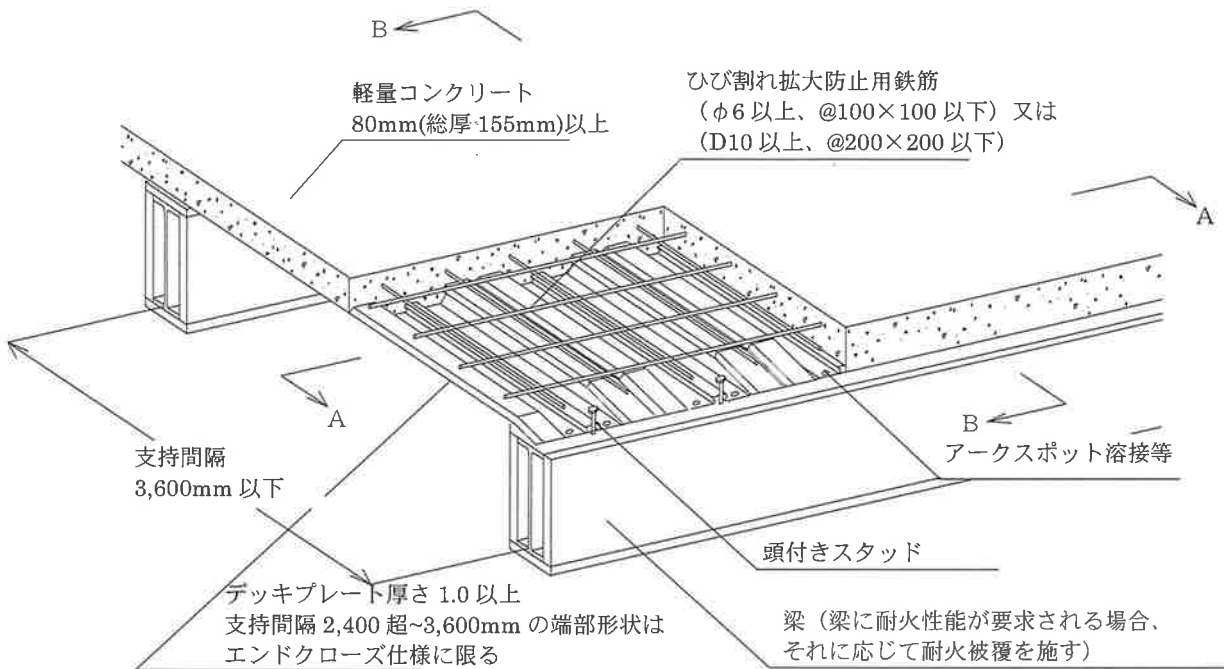
L : 支持間隔 (m)

4. 構造説明図

(1) 透視図

デッキプレートが連続支持の場合

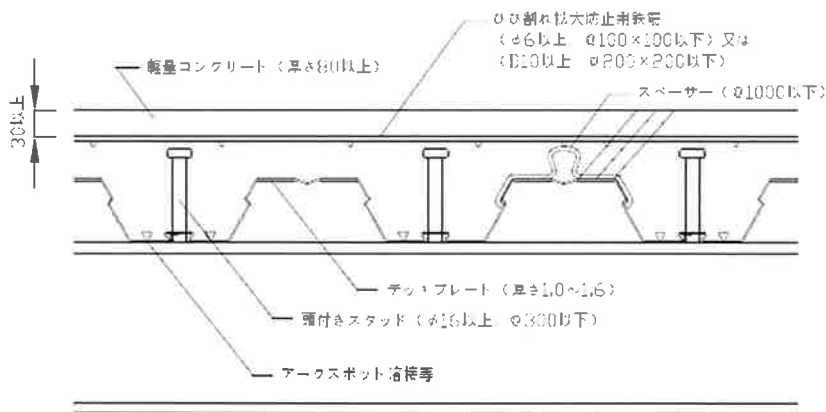
(単位：mm)



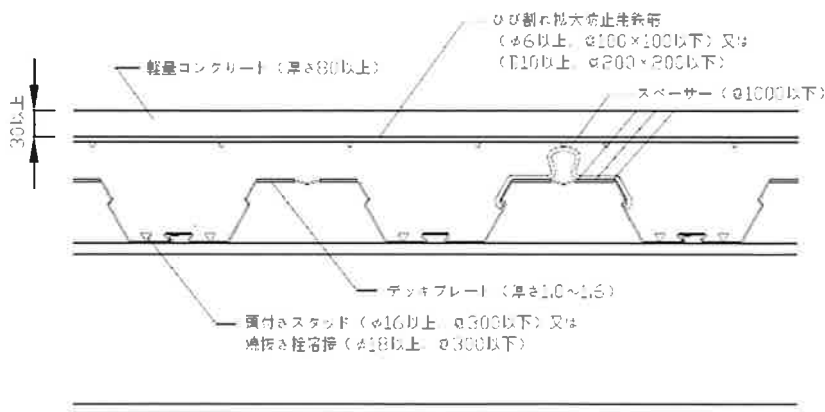
(2) 断面図

i) A-A断面図

①デッキプレート端部梁

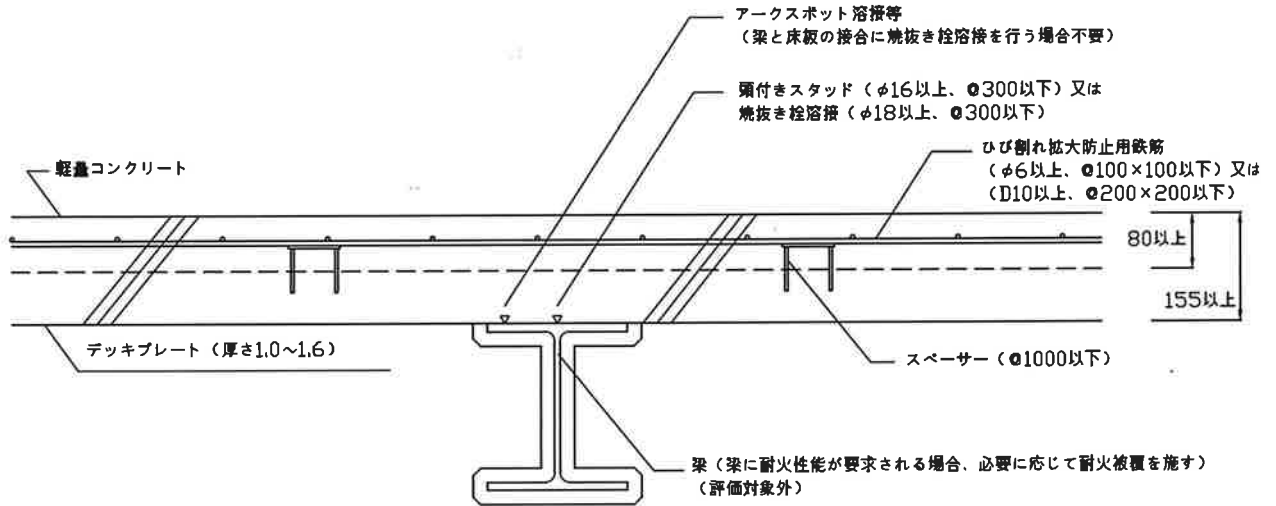


②デッキプレート中間部梁

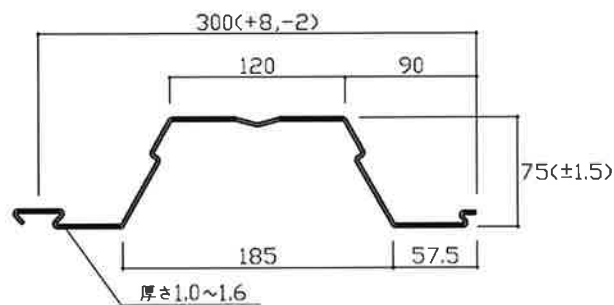
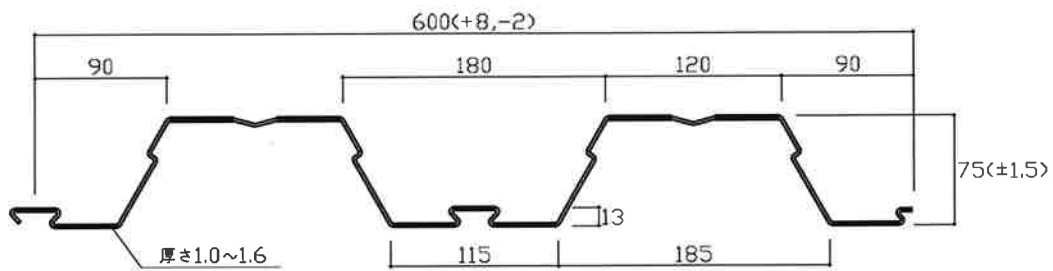


ii) B-B断面図

(単位: mm)



(3) デッキプレートの形状及び寸法



5. 施工方法

(1) デッキプレートの敷込み及び梁とデッキプレートの接合

デッキプレートを設置する梁の芯々間隔が所定の間隔以下であることを確認する。デッキプレートを墨出し線に合わせて梁に配置する。デッキプレートの端部と梁とのかかり代は 50 mm 以上とし、この両者をアークスポット溶接等で仮止めする。

(2) 梁と床版との接合

デッキプレート端部を支持する梁と床版とは、頭付きスタッドにより接合する。頭付きスタッドの接合方法は、平成 14 年国土交通省告示第 326 号の規定または「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」（日本建築学会）もしくは「各種合成構造設計指針・同解説」（日本建築学会）によるものとする。

デッキプレート中間部梁と床版とは、頭付きスタッド、または焼抜き栓溶接により接合する。

(3) デッキプレートの長さ方向相互の接合

デッキプレートの長さ方向相互は嵌合により接合する。必要に応じて、その嵌合部を溶接、ねじ等で固定する。

(4) デッキプレートの小口処理

支持間隔が 2,400 超～3,600mm の場合は、エンドクローズ仕様とする。支持間隔が 2,400mm 以下の場合は、必要に応じてデッキプレートの山部の小口を鋼板等で塞ぐ。

(5) ひび割れ拡大防止用鉄筋の配置

溶接金網または異形鉄筋は、スパーサー（配置間隔 1,000mm 以下）を用いて、床版上面からのコンクリートのかぶり厚さが 30 mm 以上となるように床全面に敷き並べる。

溶接金網は、線径が 6mm 以上、網目間隔が 100×100mm 以下のものとする。異形鉄筋の直径は D10 以上とし、配筋間隔は縦及び横とも 200mm 以下とする。異形鉄筋の加工及び組み立ては、「建築工事標準仕様書・同解説 JASS 5 鉄筋コンクリート工事（日本建築学会）」（以下、「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」という）に準拠する。

(6) コンクリートの打込み

コンクリートの打込みは、「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に準拠する。コンクリートは、ひび割れ拡大防止用鉄筋の移動によりかぶり厚さ不足が生じることのないように、また、所定厚さを確保するように不陸なく打込む。

(7) コンクリートの仕上げ

コンクリートの表面は金ごて等の仕上げを施す。

(8) コンクリートの養生

コンクリートの養生は、「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に準拠するが、初期には湿潤養生を行う。